

島根県競技力向上対策本部 第5回本部会議次第

日時：令和6年8月26日（月）14：00～16：00

場所：サンラポーむらくも 2階「祥雲の間」

1. 開 会

2. あいさつ 本部長（島根県副知事 石原 恵利子）

3. 報告事項

- (1) 充実期の競技力向上対策取組方針・・・・・・・・・・資料1
- (2) 第8回～第10回 選手強化対策委員会の概要・・・・・・・・・・資料2
- (3) 第78回国民スポーツ大会（第79回冬季大会）中国ブロック大会・・・資料3

4. 承認事項

- 第1号議案 本部役員の変更・・・・・・・・・・資料4
- 第2号議案 令和5年度補正予算・・・・・・・・・・資料5
- 第3号議案 令和5年度収支決算・・・・・・・・・・資料6
- 第4号議案 令和6年度収支予算及び事業計画・・・・・・・・・・資料7
- 第5号議案 島根かみあり国スポ強化指定校の指定・・・・・・・・・・資料8

5. 協議事項 （以下、非公開）

- (1) 令和7年度に向けた事業検討
 - ① 女性アスリートの課題対応・・・・・・・・・・資料9
 - ② 医科学サポートの体制整備・・・・・・・・・・資料10

6. あいさつ 副本部長（島根県スポーツ協会理事長 田部 長右衛門）

7. 閉 会

第5回 島根県競技力向上対策本部会議 出席者名簿

(敬称略 順不同)

【島根県競技力向上対策本部委員・監事】

役 職	氏 名	出 欠
島根県副知事	石 原 恵 利 子	
公益財団法人島根県スポーツ協合理事長	田 部 長 右 衛 門	
島根県環境生活部長	美 濃 亮	
島根県市長会長	久 保 田 章 市	(代理出席) 常務理事 藤間博之
島根県町村会長	池 田 高 世 偉	
島根県教育委員会教育長	野 津 建 二	(代理出席) 教育監 木原和典
島根県市町村教育委員会連合会会長	杉 谷 学	
島根県商工会議所連合会幹事長	松 浦 俊 彦	欠席
島根県商工会連合会会長	高 橋 日 出 男	
島根県中小企業団体中央会会長	杉 谷 雅 祥	(代理出席) 専務理事 荒田裕司
公益財団法人島根県スポーツ協会専務理事	竹 内 俊 勝	
公益財団法人島根県スポーツ協会スポーツ医・科学委員長	伊 達 伸 也	
株式会社山陰合同銀行執行役員人事部長	原 直 幸	
株式会社中筋組代表取締役社長	中 筋 豊 通	(代理出席) 代表取締役専務 中筋元尚
島根県小学校長会長	安 達 利 幸	
島根県中学校体育連盟会長	安 達 正 治	
島根県高等学校体育連盟会長	山 崎 誠	
島根県立大学名誉教授	岸 本 強	
オリンピック (東洋大学教授)	土 江 寛 裕	
島根県会計管理者	出 雲 昌 浩	
公益財団法人島根県スポーツ協会監事	佐 藤 行 生	

【島根県競技力向上対策本部事務局】

役 職	氏 名	所 属
事務局次長	青木 悟	島根県環境生活部スポーツ振興課長
事務局次長	太田 俊介	島根県教育庁保健体育課長
業務統括	松本 守正	島根県環境生活部スポーツ振興課 競技力向上推進室 室長
トップアスリートコーディネーター (選手・指導者確保)	佐藤 睦也	島根県環境生活部スポーツ振興課 競技力向上推進室 トップアスリートコーディネーター
トップアスリートコーディネーター (企業マッチング)	勝部 府実	島根県環境生活部スポーツ振興課 競技力向上推進室 トップアスリートコーディネーター
事務局員 (総務・企画班)	森脇 卓哉	島根県環境生活部スポーツ振興課 競技力向上推進室 主任
〃	池田 晃大	島根県環境生活部スポーツ振興課 競技力向上推進室 主任
〃	石出 創士	島根県環境生活部スポーツ振興課 競技力向上推進室 主任主事
事務局員 (競技力向上班)	井上 明久	島根県環境生活部スポーツ振興課 競技力向上推進室 課長補佐
〃	佐々木 浩三	島根県環境生活部スポーツ振興課 競技力向上推進室 主幹
〃	藤田 和弘	島根県環境生活部スポーツ振興課 競技力向上推進室 主幹
〃	吉田 理知	島根県環境生活部スポーツ振興課 競技力向上推進室 主幹
〃	土井 正倫	島根県環境生活部スポーツ振興課 競技力向上推進室 主幹
〃	安部 さくら	島根県環境生活部スポーツ振興課 競技力向上推進室 主幹
〃	橋本 恵一	島根県環境生活部スポーツ振興課 競技力向上推進室 主幹
〃	二上 英紀	島根県環境生活部スポーツ振興課 競技力向上推進室 主任
事務局員 (部活動強化班)	大田 修子	島根県環境生活部スポーツ振興課 競技力向上推進室 課長補佐 島根県教育庁保健体育課 企画幹
島根県スポーツ協会	陶山 和秀	(公財) 島根県スポーツ協会 競技スポーツ課 課長
〃	福間 康二	(公財) 島根県スポーツ協会 競技スポーツ課 課長代理
〃	岩本 紘明	(公財) 島根県スポーツ協会 競技スポーツ課 課長代理
〃	小谷 太洋	(公財) 島根県スポーツ協会 競技スポーツ課 主任
〃	重親 亜衣	(公財) 島根県スポーツ協会 競技スポーツ課 主事

充実期に向けた取組

スポーツ振興課

1. 現状

[目標順位・得点]

	順位	得点
鹿児島国体 (R5)	46 位	630.5 点 (参加得点 400 少年 158.5 成年 72)



充実期 (R6~8)	20 位台	1000 点 (参加得点 400 少年 360 成年 240)
------------	-------	---------------------------------

⇒ 多くの競技において、強化を図る上での選手確保が十分でない

2. 課題

(1) 国スポに向けた選手強化

- ① 未普及競技の選手確保・・・入賞競技の拡大へ
- ② 少年選手の確保・・・島根の強みを確実なものへ
- ③ 成年選手の確保・・・得点割合を少年:成年=7:3 から 6:4 へ
- ④ 競技団体の体制強化 (指導者・スタッフの確保)・・・国スポ後の財産へ

(2) 国スポ後に引き継ぐレガシーづくり

- ① 競技団体の体制強化 (指導者・スタッフの確保) 【再掲】・・・国スポ後の財産へ
- ② 地域が一体となった選手の受皿確保 (協定の締結)・・・国スポ後の財産へ

3. 取組方針

本部職員の伴走支援のもと、競技団体とともに目標を設定して取組を推進し、

- ・ 各年度の目標達成状況等により、競技・種別の強化費配分を強化
- ・ 充実期の目標達成状況等を踏まえ、躍進期は、2030 年に入賞が狙える競技・種別に強化費を重点配分

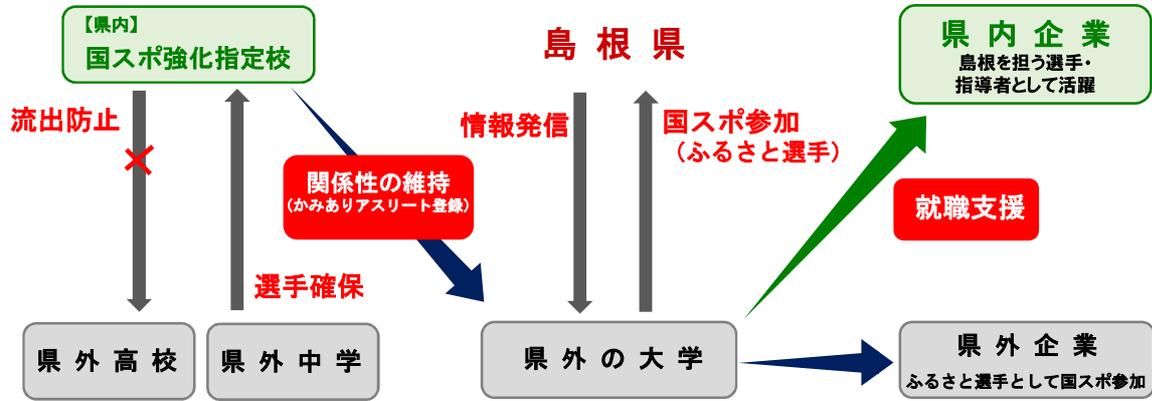
(1) 国スポに向けた選手強化

- ① 未普及競技の選手確保
クラブの創立・運営支援による中学生が競技継続する活動の場の確保
- ② 少年選手の確保
競技活動・寮費支援による高校生選手の確保 (流出防止・県外確保)
- ③ 成年選手の確保
 - ・ かみありアスリート登録・・・ふるさと選手、県内就職につなげる関係づくり
 - ・ ふるさと選手の働きかけ・・・即戦力の獲得
 - ・ 県内就職支援の強化・・・即戦力の獲得
 - ・ クラブチーム、企業部活動の創設・・・県内就職につなげる環境づくり
- ④ 競技団体の指導者・スタッフの確保
就職支援による競技団体の体制整備

(2) 国スポ後のレガシーづくり

- ① 競技団体の指導者・スタッフの確保 【再掲】
- ② 地域が一体となった選手の受皿確保
奥出雲のホッケー、美郷町のカヌーのように、地域に引き継がれるレガシー創出のための、県、市町村、競技団体等による協定の締結

少年の強化を成年の得点に繋げる事業スキーム



県の支援

■有望選手の確保【新規】

- ・競技実績のある有望選手に対して、活動費、寮費等を支援
- ・高校卒業後、ふるさと選手での国スポ参加が条件（=高校3年間+大学4年間は島根代表）

↓

スポーツを通じて繋がりを強め、
島根を「ふるさと」にする

県の支援

■関係性の維持（かみありアスリート登録）【新規】

- ・有望選手の情報を把握し、リスト化
- ・LINEで島根の競技情報や就職情報等を発信

■ふるさと選手確保【取組強化】

- ・かみありアスリート登録を活用し確保強化

↓

島根への関心を繋ぎとめ、
島根への就職を促す

県の支援

■地域での受け皿確保【制度創設】

- ・地域や企業が主体となって成年チームを創設する際の初期経費を支援

■県内就職支援【取組強化】

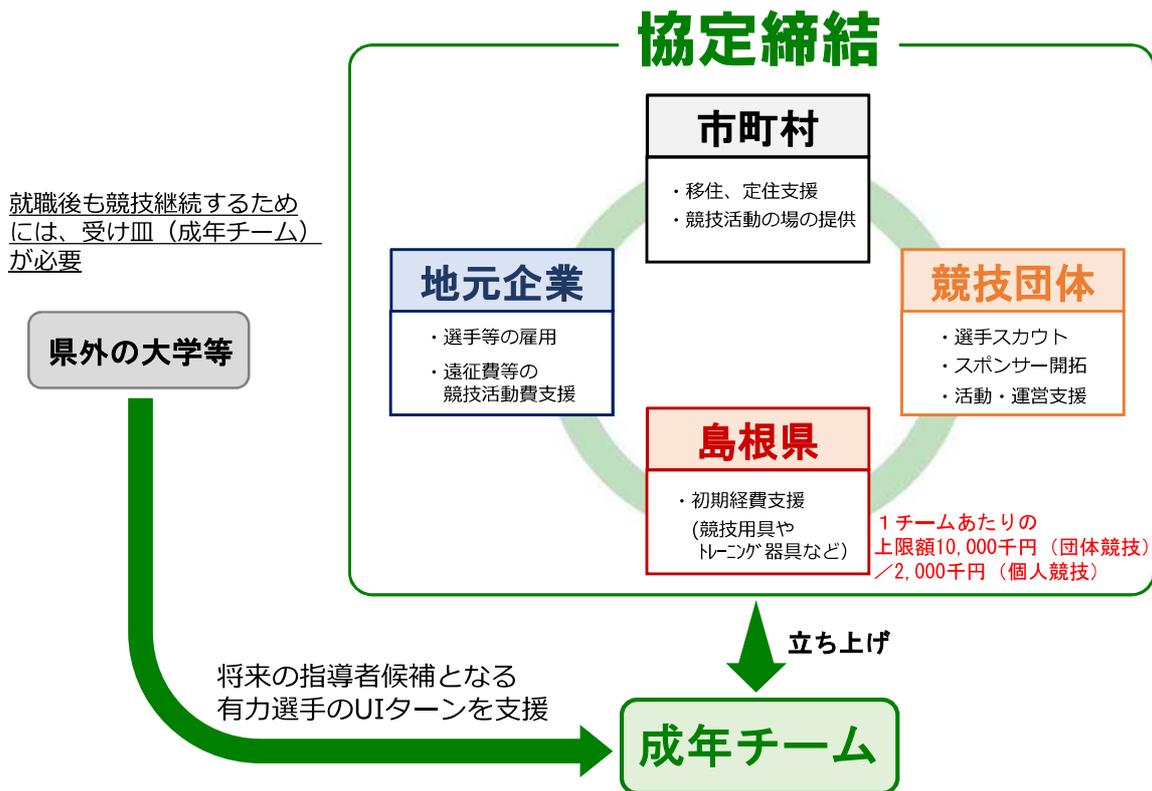
地域振興部・市町村連携

- ・市町村と連携しながら、専門職員が就職斡旋

商工労働部連携

- ・受入企業のPRを行い、協力企業を拡充

地域での受け皿確保



第 8 回 島根県選手強化対策委員会の概要

1. 期 日 令和 5 年 12 月 19 日 (月) 10 : 00 ~ 12 : 00

2. 会 場 サンラポーむらくも

3. 参加者 委員長 1 名、副委員長 1 名、委員 13 名 合計 15 名

4. 報告事項

①特別国民体育大会（鹿児島国体）の成果と課題

②令和 6 年度競技力向上対策事業（案）

【質疑応答・意見】

・発言なし

5. 協議事項

①充実期の取組について

【質疑応答・意見】

(委員)

・体力測定事業は 1 回やっただけでは現状把握にすぎない。定期的に行うことを推奨して欲しい。

・アスリート登録事業について、ふるさと選手の男女の割合、男女比はどのぐらいか？

(事務局)

・体力測定事業の複数回利用については検討していきたい。

・ふるさと選手の男女割合は資料がないが、感覚的には女子の方が少ない。現状把握からしっかりやっていきたい。

(委員)

・中学校にやりたい競技がない。その中でも中体連加盟競技に入っているかどうかがあるが、得点を取ることを考えると中学校の部活動とは違う場面で強化が必要になるかもしれない。

・部活動は週 5 日なので、その日に被らないように練習を設定して、中学校の部活動と並行してもう 1 競技という転換もあっても良いかと思う。

(事務局)

・部活動に限らず社会体育でも活動の場がない場合は立ち上げていかないといけない。競技によっては掛持ちも出てくるかもしれない。状況を踏まえて対応を考えていく。

(委員)

・クラブの補助について、ほとんどの競技はクラブがあると思うが想定競技は？

(事務局)

・創設については、部活動が無く、社会体育もない競技のクラブを創設していく。運営支援については、部活動が無い競技を対象と考えている。

(委員)

・指導者が熱心なところでクラブを創設して欲しい。

・女性が大会や練習会に育児で出にくいということがあり、連盟として保育士を常駐させて参加しやすい環境を整えている。もし可能なら経費を支援して欲しい。

・ふるさと選手について、高校の指導者が必ず大学に行ったらふるさと選手に登録するよう高校生のうちから働きかけをして欲しい。

(事務局)

・保育士の常駐については、現在の補助金メニューにはないので、今後ヒアリング等をして現状を把握したうえで検討していく。

・ふるさと選手の働きかけについては、今年度より LINE の友達登録の働きかけを顧問の先生にお願いしている。

(委員)

・女性アスリート同士の繋がりがないと思う。特に競技の垣根を超えた繋がり。どういったことに困っているのか把握できていないと思うので、まず一回意見を聞く場を作った方が良い。

(事務局)

・女性アスリートの困っていることの把握からまだできていない状況なので、声を聞く中でどういったことが出来るのか考えていきたい。

(委員)

・競技によっては、女性がトップの選手でいられるのは限られた時間でしかない。特に今は 10 代の

選手が上がってきている。

- ・高卒後、4年の間にどれだけ力を付けて日本のレベルのトップにいけるか分かれてくる。4年後に上られる子は数人で、多くの子はやめていく。4年間頑張っ、やめていく子の受け皿がないのが現状。県が企業などいろんなところに働きかけてくれないとなかなか難しいことだと思う。

(事務局)

- ・課題把握からしていかないといけないと思う。

(委員)

- ・強化の方法が分からない競技団体に対しては日本のトップコーチに年に数回来ていただいて、方法、術というのを聞くことによって光が見えてくるのではないかな。

(事務局)

- ・ここ数年ヒアリングで感じていることで、できない、人がいない、やる人がいないというフレーズがどんどん出てきて前に進まない競技団体がある。熱いものを全く感じない、指導者としてできない、やるものがないと平気で言われる。火付け役をしなないといけないなと感じている。

(委員)

- ・強化の委員として感じているのが、指導者の熱意が全くない。目の前の選手は一生懸命頑張っているのに何とも思わないのか、何とかしてやろうと思わないのか。
- ・中学校の教員は逃げ道がある。部活動は地域移行するのだから、仕事じゃないという感じ。
- ・人を育てるのが教員の仕事、教科として、部活動として、行事として、色んな活動の場面で色んな経験をさせて、色んな成功、失敗の中から人を育てることを担っていくのが教員の仕事だと思う。
- ・中体連、高体連が中心になっていかないと選手も育っていかない。競技団体、競技団体、ではなく、少年種別は中体連、高体連の責任として、何点取れと各専門部を動かして、強化指定校もあるし、主だった指導者もおられるし、中心にやっていくことが必要ではないかな。
- ・競技団体の使命としては成年をなんとかすること。
- ・高体連の専門部にもっとリーダーシップを発揮してもらってやっていかないと、人はいないし、環境もそうそう充実しているとは言えない環境の中で、人の育ちようがないのが現状。どうしても教員が中心になっていかざるを得ないところがあると思う。
- ・熱意のある方にやって頂く必要がある。競技団体1つに1クラブではなくやりたい熱意がある人にどんどんやって頂ければ良いと思う。

(事務局)

- ・高校の特待専、スポーツ推進教員、今年度からは国スポ推進教員を認定して、来年もさらに増やしていき、最終的には30名ぐらい認定していく。今年もミッションとして少年を鍛えることをやって欲しいと研修会で伝えた。中体連、高体連についても何らかの形で話をしたい。

(委員)

- ・ふるさと選手については大学生や高校から県外へ出ている選手に声をかけているが、小学校で有望で県外へ出て行った選手がどこかの時点で強くなれなかったという選手がほとんど。それでも頑張っている選手に声をかけたが、出てこない。
- ・2030年に向けて成年選手で使えるのは今の中学生、高校生を見ると、ふるさと選手で使えるほどの力がない、選手がいない。他の競技は分からないが、そもそもふるさとで使える選手がいないので、理想は島根県出身の選手で戦いたい、厳しいとなると外から成年男子の選手を持ってこようという考えを持っている。
- ・選手を持ってくる場合、どこの会社に入るのかというところが大きな問題。どこか雇用するところを県に動いてもらわないとこれだけの得点をふるさと選手でとれるのかという現実、難しい。実際に動いても無理なので、ダメでも企業にアタックして欲しい。

(事務局)

- ・島根への就職事業については今やっているのでもっとしっかりやっていく。
- ・成年選手の確保については企業に部活等を作ってもらおうようお願いし県外から連れてくる方法もあると思うが、県だけでなく競技団体も必要性を訴えて頂かないといけないので、具体的な話になれば一緒に動いていきたい。

(委員)

- ・ターゲットエイジの早期選定をし、選手を絞り込んで県外遠征等に連れていくのが一番の強化だと思う。全国レベルの選手と顔なじみになり、自分が全国でどのレベルか把握し、戦力分析ができた状態で試合に臨む必要がある。緊張でパフォーマンスが発揮できないことがあるので、1試合目

からベストの力を出せる選手を作らないといけない。

- ・カウンターパート制度についてはありがたいと思っている。県とのヒアリングを毎年させて頂いているが、それまでのところで2回CPと事前に協議をさせて頂くことにしている。率直に意見を言わせて頂き、できるものはできる、できないものはできないと建設的に動いて頂いている。今後も継続して欲しい。

- ・高校生の競技活動支援について、県外の中学生在が島根に来たいという選手がいる。県外中学生の受入れで不足しているのが、寮や下宿なのでその辺りの援助を頂ければ将来のふるさと選手となり得る。

(事務局)

- ・育成期では競技の普及をしてその中で良い選手を発掘してきた。これからは候補選手を見出してその選手を強化していくやり方にシフトチェンジしていかないといけない。
- ・カウンターパートは、来年度はさらに充実させてやっていく。中学生の活動や成年選手の確保などを議論しているので、それを実行していくことになっていき、一緒に議論していきたい。
- ・高校生の支援については、アパートなども対象に考えているが食費については今後の検討。

(委員)

- ・やっぱり熱意がある先生のところ子ども達も集まってくる。良い先生がいれば集まってくる。一番は指導者、熱意のある良い指導者を取ってくることをしないと育てていくのも難しい。

(事務局)

- ・現在、指導者確保を進めており実際に大学等に行き実際に会って熱意を含めて確認をしている。
- ・今後の課題として、来ていただいた人が力を発揮できるように支援をしていかないといけない。

(委員)

- ・国スポ研修会に出席をしたが、2日間で参加した競技団体が十数人ということで、少なすぎると感じた。何歳になっても勉強できることは多くある。大分県では100人ぐらいの人が参加していた。
- ・もっと全競技団体がみんなで頑張ろうという意識が必要。県が何かをするというのもそうだが、もっとみんなが盛り上がりると良い。
- ・県外生の力は大きく、その子たちは島根を第二の故郷と言っている。その子たちがふるさと選手登録をして運営側でも選手でも島根に貢献したいと思って大学に進学している。
- ・研修会の機会を大事にし、みんなで頑張ろうと言える場があれば頑張っていけるのではと思う。

(事務局)

- ・先生方の研修については二日目にはほとんど残ってもらえなかった。アナウンスの不足、内容等の問題もあったかもしれないが、次につながる方法を考えないといけない。
- ・合同研修会についても人数が少なかった。改めて来年に向けては何らかの工夫を持って、チーム島根でいくという雰囲気づくりをしていかないといけない。

(委員)

- ・研修会については、早めの告知とか、いつなら行けるのかのやり取りを含めて、ジュニア世代だけでも良いので必ず1名は参加できるような研修会を行った上で、出来れば2、3時間で終わるものではなく1泊2日とか泊りで交流もしながらすることが大事だと思う。
- ・各種会議の中身を分かっていない指導者もおそらくいる。今、島根県の競技団体はこういう現状であり、2030年のロードマップを全競技の指導者で共有できるような場もあった方が良いと思う。
- ・もっと横のつながりができれば各指導者もモチベーションが上がってくるのではと思う。
- ・例えば、ラグビーでも足が速くなるよう陸上の先生に学んだり、タックルをレスリングの先生に学んだり、指導者交換ではないが、年間何回か来ていただいたりすると横のつながりができたり、新しい発見があるかもしれない。
- ・選手の練習時間をもっと確保したいと考えている。学校の方で、選抜された選手に対して公欠対応であったり、週何回か強化する時間を作ったりしないと時間が足りない。
- ・競技団体だけの問題だけでなく、選手も悩んでいると思うので何か検討して頂ければと思う。

(事務局)

- ・社会体育と学校との間の課題については情報不足のところもあるので、状況を確認させて頂きながら対応をさせて頂きたい。

第9回 島根県選手強化対策委員会の概要

1. 期 日 令和6年3月21日(木) 14:00~16:00

2. 場 所 サンラポーむらくも

3. 参加者 委員長1名、副委員長1名、委員13名 合計15名

4. 議 題

(1) 充実期の競技力向上対策取組方針

【質疑応答・意見】

(委員)

- ・各年度の目標達成した競技・種別の強化費配分を増額とあるが、競技団体によって目標の立て方に温度差があると思う。そのあたりどう考えているか。

(事務局)

- ・競技団体から目標点を出してもらってはいるが、目標点に関わらず結果を出したところにはしっかりと強化費をつけるというこれまでの成果主義をさらに鮮明に出すという意味。

(委員)

- ・年度によって種目が異なることから、点数が取れていないから頑張っていないと評価するのではなく、現場の励みになるような評価をして頂けると助かる。

(事務局)

- ・伴走支援として競技担当者がしっかりと入り込んで、色々な意見を聞きながら評価をしていきたいと考えている。

(委員)

- ・各競技団体にカウンターパートを配置して頂いて協議等に入っている。来年度以降も続くと思うが、小規模は競技団体にとっては非常に助かっている。また、レガシー作りで市町村との連携を深めていきたいと考えているが、地元のジュニアクラブの指導者、運営支援等が非常に大事だと思うので、支援の充実をお願いしたい。

(事務局)

- ・カウンターパートについては、競技団体の相談役、アドバイザーのような形で関わっている。強化指定校の指導者ともやり取りをしており、競技団体、強化指定校と関わっている。今後に向けては人員も増える予定なので、より入り込んだ支援ができると考えている。また、レガシーについては、指導者を競技団体でしっかりと確保して頂き、上手く運営できる形を整えて欲しい。

(委員)

- ・競技得点の高い競技をいかに強化していくかが必要だと思う。団体競技の成年種別を2030年どうするか方向性が決まっているか。

(事務局)

- ・企業で部活の創設をして欲しいという声もあるが、県内企業が団体競技を全部受け入れるのはなかなか厳しいという状況がある。競技によっては、いくつかの企業で選手を雇用して頂き、社会人クラブチームを作って活動することを考えている。

(委員)

- ・くにびき国体では教員でチームを作り優勝したが、同じ形は2030年も可能か。

(事務局)

- ・くにびき国体の際には200名選手を雇用し半数が教職員だった。また、知事をトップにして企業にチーム作りを依頼したが、国体が終わったら選手は自身の所属に帰っていった。現状では、島根県で教員100名を確保することは難しく、本当に必要な人材を指導者として数名確保している。選手の確保は企業への就職により確保したいと考えている。

(委員)

- ・2030年までは島根でやるという選手がいないと、くにびき国体の時の形にはならないと思う。3人の団体戦なら出来なくもないと思うが、大人数の競技が難しいと思う。

(事務局)

- ・様子を見ながら口説けるところから口説いていく。県内企業チームが出来るのが理想だが、そういうチームは日本リーグへの参加など、非常にハードルが高い。目指せるものは目指し、難しいものはふるさと選手を中心にチームを作りたい。

(委員)

- ・高校生を強くして、成年は大学生のふるさと選手を使う為には良い指導者が必要で、高校生を大学へ行かせることで強化を図っていけると良い。

(委員)

- ・クラブの創設について、どのぐらいの競技でクラブの創設が可能と見込んでいるか。

(事務局)

- ・実現可能な競技と、なかなか難しい競技がある。創設準備をするための支援をしていく。

(委員)

- ・いずれはどの競技団体についてもクラブの設立をしていかないと生き残っていけない。それがレガシーとして残っていき、将来的に島根で生まれ育った人がクラブを通して、子どもから大人までの理想的なクラブにできればレガシーとして、みんなが応援するような形になると思う。

(事務局)

- ・今、活躍しているところ以外のところで、会場地に近いところでやらないと盛り上がらないというところを競技団体が推薦してくれるものと考えており、それがレガシーになるのが一番良い。最終的には自立という形をとる為、2030年以降は手を放し、自走できるように、縮小にはなるかもしれないが継続できるように考えていく必要がある。

(委員)

- ・県内には約8,000社の企業がある。そのうちの93%が小規模事業者である。大きな不安として、県民が2030年に国スポがあることを分かっていない。企業が健全な状態じゃないと協力ができないので、人口が減る、生徒が減るという状況では今までやってきたことがだめになることもあり得る。前のデータではなく、新しい発想で方向を決めていかないと失敗に終わる気がする。大事なことは2030年に国スポがあるということを県民みんなに知らせること。

(委員)

- ・競技団体のヒアリングをされると思うが、2030年優勝するという熱意はそれぞれどうなのか。温度差がかなりあると思う。

(事務局)

- ・ヒアリングの感じでは皆さん熱意をもってやっておられる。けども、どこから何をして良いのかものすごく悩んでおられる。選手確保をどうしたら良いのか。その手法が見当たらないで頭を抱えておられるのが半数以上。そこにどのように関わっていくのが課題。

(委員)

- ・この1年間で大きい変化があり、1つは中体連では県大会につながる市郡予選が無くなり、地区大会も無くなった。それらを統合した形でブロック大会というのが始まった。選手の活動の場の確保だったり、未普及競技への子ども達の誘導をするための工夫が必要だったり、地域移行の推進であったり、島根県でもできることを考えていかないといけないと思う。

(委員)

- ・国スポに向けて中体連、高体連がどのように関わっていくのか。少年を強化していく、選手を増やしていくことが必要。競技団体とうまく手を取り合って強化をしていかないと、ゆくゆくの成年選手に関わってくる。

(委員)

- ・小さい団体だから出来る事かもしれないが主体になって動いているのは協会の強化部で、高校とジュニアクラブの連携を取っている。また、ターゲットエイジのチームを作り県外遠征に行こうと思っている。強化については、協会の強化部長がメニューを作って、小学校4-6年生の時にはどこまで強化するのか、中学校になったらこうする、高校に入る時にこれぐらいの力を付けるといところでジュニアの指導者と連携を取っている。段階を踏んだ強化が必要。

(委員)

- ・各競技団体が競技の魅力を頑張って伝えようとしてもなかなか難しい。メディアを活用して、各競技20分程度の特設番組を作成し、放送することが一番競技普及の効果があると思う。

(2) 島根スポーツメディカルセンターについて

【質疑応答・意見】

- ・発言なし

(3) その他

【質疑応答・意見】

- ・発言なし

第10回 島根県選手強化対策委員会の概要

1. 期 日 令和6年8月7日(水) 10:00~12:00

2. 場 所 ホテル白鳥

3. 参加者 委員長1名、副委員長1名、委員11名 合計13名

4. 報告事項

(1) 選手、指導者確保の状況

【質疑応答・意見】

・発言なし

(2) 中学生クラブ創立・運営支援事業の状況

【質疑応答・意見】

・発言なし

5. 協議事項

(1) 島根かみあり国スポ強化指定校の指定

【質疑応答・意見】

・発言なし

→全員賛成

(2) 高校生の競技活動支援事業

【質疑応答・意見】

・発言なし

→全員賛成

(3) R7年度に向けた事業検討

【質疑応答・意見】

(委員)

・女性アスリートの課題やサポートについて、競技によっては体重や体脂肪がパフォーマンスに影響を与えるものもある。女性アスリートは男性の指導者になかなか相談し難いこともあると思うし、逆に指導者も聞き難いということもある。是非、専門家の方に合宿等に出向いて頂いて話を聞いてもらえると良いと思う。

(事務局)

・窓口を構えて待っているだけではなく、積極的に出かけて話を聞くことが必要だと認識したので、活動の中でやっていけるように検討していきたい。

(委員)

・島根県の現状として、個で動いていることが多く、1つの組織として動いていない為、連携が取れていないことがあるので、どうしても競技によってサポートに差が出る。また男性アスリート、女性アスリートによってもサポートに差があると思う。そのような中で、このような対応を検討することは、スポーツ医・科学サポート事業をより高度に行っていくためには必要不可欠だと感じている。

(事務局)

・関係者にヒアリングをする中で個々に動いていて、他のスタッフを派遣した時に情報を申し伝えることも出来ないし、どんなことをやっているかも分からないというような声が聞こえてきた。より効果的な形で出来るよう進めていきたい。

(委員)

・女性アスリートのサポート事業は、非常に効果的な取組だと思っている。実際に動き出すのは令和8年からということでもよろしいか。現場に足を運んでいただいて、生の選手の声、指導者の声を聞いていただくと効果的だと思う。競技毎の対応状況やサポート、助言内容などを共有して頂けるとありがたい。

(事務局)

・ワンストップ窓口については、令和8年度からの実施を目指す。それ以外の広報等についてはできるものからやっていく。情報共有等についてもどういったやり方ができるか検討していきたい。

(4) その他

【質疑応答・意見】

(委員)

- ・競技によって差があると思うが、寮費支援を中学生に広げることにはできないか。

(事務局)

- ・競技によっては県外の生徒が中学校から寮に入り活躍されているということも聞いている。そのようなケースに対してどう対応するかは検討していきたい。

(委員)

- ・寮費支援の基準について、中国地区大会 4 位相当と全国 8 位入賞相当と比較した際にバランスが悪く感じる。競技によってはかなりの人数になると思うので、もう少し絞り込んだ基準はできないか。

(事務局)

- ・今後に向けて検討はしていくが、全国 8 位入賞のみにすると競技力が低い島根県では確保が難しい競技がある。どう運用していくかは引き続き検討していく。

(委員)

- ・島根かみあり国スポ強化指定校の拠点型とはどういう形か？種目によっては施設や設備にかなりの費用がかかり、競技用具も高額であったりする。設備があるところに進学できない場合、拠点型があればそこに行って練習をみてもらえるのか。

(事務局)

- ・拠点型というのは練習環境が限られている競技を想定している。拠点型に指定された学校については、他校の生徒も幅広く遠征等に連れていくことも考えている。個人指定の競技については、学校を絞ることが難しいが、部活動の委任制度を活用し施設や設備がある学校で競技をすることはできる。どういう運用ができるかは話を聞きながら検討していきたい。

(委員)

- ・女性アスリートのサポートについては意味があることだと思うが、まずは競技を大学、社会人になってからも続けさせるような働きかけとして、具体的にどういうことを言ってあげれば競技を続けてくれるのか難しい。女性アスリートで現役を続けている方は、どういったことが競技継続の理由になったのか知りたい。

(事務局)

- ・女性に限らず競技は高校までと決めて競技をやっている選手もいるので、競技継続の働きかけはなかなか難しい。女性の場合、保育士や看護師になりたいから専門の学校に進学し、部活動がないというケースもあるので、そういったケースに対してはクラブを紹介するなどの取組を検討していきたい。

(委員)

- ・仕事と競技が結びつかないと難しいかもしれない。結婚して子どもができることより難しかったりするので最初からやらない選択をして競技から離れて行ってしまおう。

(委員)

- ・大学でも競技を続ける選手は大方インターハイの決勝に残っており、目標や夢の続きを追っている。大学卒業後はオリンピック等を狙うかどうかで競技の継続をするかどうかになり、どうしても徐々に少なくなっていく。そういう意味では、高校を卒業していく時に我々が高い競技力をつけさせて卒業をさせてあげないといけない。もう一つは、教員になりたい子が教育学部や体育学部に進学して競技を続けるケースもある。問題なのはそもそもの部活動の加入者が少ない為、残っていく選手も少ないこと。競技者数を増やすことが第 1 だと思う。

(委員)

- ・選手が勝てそうだった瞬間から可能性が出てくる。その為には勝てそうだと思う体験をする必要がある。実際、自分の競技では小学生が全国大会で 3 位に入賞した瞬間に島根は勝ちだした。強い県というのは身近に強い選手がいて、小さい頃からそういう選手と切磋琢磨するのとしれないのでは全然違う。また、この競技を続けたことでこういうことが味わえたというような良い経験が次世代にもつながると思う。

第78回国民スポーツ大会（SAGA2024国スポ）の出場種目について

【本大会出場種目（正式競技）】

※ 網掛けしていない競技種目：島根県が本大会への出場権利を獲得
 各県欄の数字：中国ブロック大会の順位、○数字の場合は中国ブロック突破

NO	競技名	種別（種目）	全国枠		中国ブロック代表数	島根の突破状況	鳥取	岡山	広島	山口	
			県	単							
1	陸上	全種別	県	単	出場	県単出場	-	-	-	-	
2	水泳	全種別競泳	県	単	出場	県単出場	-	-	-	-	
		全種別飛込	県	単	出場	県単出場	-	-	-	-	
		全種別オープンウォーター	県	単	出場	県単出場	-	-	-	-	
		少年男子水球	12	1	5	3	2	4	①		
		女子	10	1	不参加	2	不参加	不参加	①		
		少年女子アーティスティックスイミング	18	中・四	2	②	不参加	不参加	①	不参加	
3	サッカー	成年女子	16	2	②	4	3	①	5		
		少年男子	24	1	4	5	3	①	②		
		少年女子	16	2	5	4	2	①	3		
4	テニス	成年男子	32	4	①	5	②	③	③		
		成年女子	32	2	4	5	①	3	②		
		少年男子	県	単	出場	県単出場	-	-	-	-	
		少年女子	県	単	出場	県単出場	-	-	-	-	
5	ローイング	成年男子	舵手つきフォア	20	2	3	①	②	5	4	
			ダブルスカル	県	単	出場	県単出場	-	-	-	-
			シングルスカル	20	3	③	①	5	4	②	
		成年女子	舵手つきクォドルブル	20	2	4	①	不参加	3	②	
			ダブルスカル	15	1	3	①	②	不参加	4	
			シングルスカル	20	2	4	①	3	②	5	
		少年男子	舵手つきクォドルブル	20	2	4	②	①	3	5	
			ダブルスカル	20	2	4	①	②	3	5	
			シングルスカル	20	2	4	①	②	3	5	
少年女子	舵手つきクォドルブル	20	2	②	①	3	4	5			
	ダブルスカル	15	1	4	2	①	3	不参加			
	シングルスカル	20	2	5	①	3	4	②			
6	ホッケー	成年男子	10	1	①	3	5	2	3		
		成年女子	10	1	5	3	3	①	2		
		少年男子	10	1	2	①	3	3	5		
		少年女子	10	1	①	3	5	3	2		
7	バレーボール	6人制競技	成年男子	10	1	①	3	3	5	2	
			成年女子	10	1	2	3	①	3	5	
			少年男子	24	2	4	5	②	3	①	
			少年女子	24	2	3	5	①	4	2	
		ビーチバレーボール	少年男子	24	2	3	①	②	4	5	
			少年女子	24	2	3	①	②	5	4	
8	体操	成年男子競技	11	1	3	4	①	2	不参加		
		成年女子競技	10	1	2	3	①	不参加	不参加		
		少年男子競技	25	3	③	5	①	②	4		
		少年男子新体操	10	1	不参加	不参加	①	2	不参加		
		少年女子競技	25	2	3	4	②	①	5		
		少年女子新体操	23	2	4	②	①	3	不参加		
		男子共通トランポリン	10	1	4	①	2	3	不参加		
女子共通トランポリン	10	1	4	①	3	2	不参加				
9	バスケットボール	成年男子	16	1	3	2	4	5	①		
		成年女子	16	1	4	2	3	5	①		
		少年男子	24	3	5	4	②	①	③		
		少年女子	24	3	5	②	4	①	③		
10	レスリング	成年男子	県	単	出場	県単出場	-	-	-	-	
		成年女子	県	単	出場	県単出場	-	-	-	-	
		少年男子	県	単	出場	県単出場	-	-	-	-	
11	セーリング	成年男子	県	単	出場	不参加	-	-	-	-	
		成年女子	県	単	出場	不参加	-	-	-	-	
		少年男子	県	単	出場	不参加	-	-	-	-	
		少年女子	県	単	出場	不参加	-	-	-	-	

N0	競技名	種別(種目)	全国枠	ブロック代表数	鳥根の突破状況	鳥取	岡山	広島	山口	
12	ウェイトリフティング	成年男子	139	2~4	③	4	①	②	5	
		女子	県単出場		県単出場	-	-	-	-	
		少年男子	126	2~3	4(県単出場)	③	①	5	②	
13	ハンドボール	成年男子	16	2	4	4	2	①	3	
		成年女子	19	1	4	4	3	①	2	
		少年男子	19	1	3	2	①	5	3	
		少年女子	16	1	3	5	2	3	①	
14	自転車	成年男子	県単出場		県単出場	-	-	-	-	
		女子	県単出場		県単出場	-	-	-	-	
		少年男子	県単出場		県単出場	-	-	-	-	
15	ソフトテニス	成年男子	県単出場		県単出場	-	-	-	-	
		成年女子	21	1	5	3	4	①	②	
		少年男子	24	2	②	5	①	4	3	
		少年女子	16	1	5	4	②	①	3	
16	卓球	成年男子	20	2	3	5	4	①	②	
		成年女子	県単出場		県単出場	-	-	-	-	
		少年男子	32	3	①	5	②	4	③	
17	軟式野球	成年男子	32	3	①	5	①	①	4	
		少年男子	県単出場		県単出場	-	-	-	-	
		少年女子	16	2	②	5	①	4	3	
18	相撲	成年男子	県単出場		県単出場	-	-	-	-	
		少年男子	県単出場		県単出場	-	-	-	-	
		少年女子	県単出場		県単出場	-	-	-	-	
19	馬術	成年男子	選手245 馬180	選手26 馬18	④	5	①	②	③	
		成年女子								
		少年								
20	フェンシング	成年男子	県単出場		県単出場	-	-	-	-	
		成年女子	18	1	3	4	2	5	①	
		少年男子	18	2	①	5	②	4	3	
		少年女子	18	1	2	4	3	5	①	
21	柔道	成年男子	18	1	①	4	5	2	3	
		女子	22	2	②	5	①	4	3	
		少年男子	県単出場		県単出場	-	-	-	-	
22	ソフトボール	成年男子	13	1	5	3	①	3	2	
		成年女子	13	1	5	3	2	①	3	
		少年男子	13	1	2	4	3	①	5	
		少年女子	13	2	5		①		4	
23	バドミントン	成年男子	16	2	3	5	②	①	4	
		成年女子	県単出場		県単出場	-	-	-	-	
		少年男子	32	3	①	5	4	③	②	
24	弓道	少年女子	16	2	5	4	3	②	①	
		成年男子	24	2	4	3	①	5	②	
		成年女子	24	3	②	①	4	③	5	
		少年男子	19	2	5	①	3	4	②	
25	ライフル射撃	成年男子	FR3P・FR40	22	2	不参加	4	①	②	3
			FR60PR	22	2	②	5	3	4	①
			AR60	24	3	②	4	①	5	③
			AP60	24	2	3	②	①	5	4
			CFP60・CFP30	県単出場		県単出場	-	-	-	-
		成年女子	R3P・R60PR	22	2	不参加	不参加	不参加	不参加	①
			AR60W	県単出場		県単出場	-	-	-	-
			AP60W	24	3	③	4	②	①	5
		少年男子	AR60J・AR30J	24	2	不参加	①	3	②	4
			BR60J	県単出場		県単出場	-	-	-	-
BP60J	16		2	4	①	②	5	4		
AR60WJ	24		2	3	5	①	②	4		
少年女子	BR60WJ	22	2	①	3	②	5	4		
	BP60WJ	16	1	①	3	2	5	4		

N0	競技名	種別(種目)	全国枠		ブロック数	鳥根の突破状況	鳥取	岡山	広島	山口
			代表	出場						
26	剣道	成年男子	県単出場			県単出場	-	-	-	-
		成年女子	16	1	4	5	①	2	3	
		少年男子	16	1	3	5	4	①	2	
		少年女子	16	1	2	5	4	3	①	
27	ラグビーフットボール	成年男子	12	1						
		女子	12	1						
		少年男子	12	1						
28	スポーツクライミング	成年男子	県単出場			県単出場	-	-	-	-
		成年女子	26	1	5	2	4	3	①	
		少年男子	26	2	4	①	5	3	②	
		少年女子	25	2	3	①	5	4	②	
29	カヌー	成年男子	スプリントK-1	24	2	②	5	4	3	①
			スプリントC-1	24	2	①	不参加	3	4	②
			スラロームK-1	24	2	不参加	①	②	4	3
			スラロームC-1	10	1	失格	2	①	不参加	不参加
			ワイルドK-1	10	1	3	不参加	①	2	不参加
		成年女子	スプリントK-1	19	2	①	不参加	不参加	3	②
			スプリントC-1	10	1	①	不参加	不参加	2	不参加
			スラロームK-1	19	2	不参加	①	②	不参加	不参加
			スラロームC-1	10	1	不参加	不参加	不参加	①	不参加
			ワイルドK-1	10	1	不参加	①	不参加	不参加	不参加
		少年男子	スプリントK-1	29	3	①	2	5	4	3
			スプリントK-2	12	1	①	2	5	4	3
			スプリントC-1	26	3	①	②	5	4	③
			スプリントC-2	12	1	①	4	2	3	5
スプリントK-4	12		1	①	不参加	2	3	不参加		
少年女子	スプリントK-1	24	2	①	不参加	3	②	4		
	スプリントK-2	12	1	①	3	4	2	5		
30	アーチェリー	成年男子	24	3	5	4	②	①	③	
		成年女子	24	2	5	②	①	4	③	
		少年男子	14	1	4	5	②	①	③	
		少年女子	14	1	不参加	③	②	①	4	
31	空手道	成年男子	組	県単出場		県単出場	-	-	-	-
			形	31	2	3	-	①, 4	-	②
		成年女子	組	県単出場		県単出場	-	-	-	-
			形	31	3	①	③	-	②	-
		少年男子	組	県単出場		県単出場	-	-	-	-
			形	31	2	-	-	-	②, 4	①, 3
少年女子	組	県単出場		県単出場	-	-	-	-		
	形	31	2	-	4	①	-	②, 3		
32	銃剣道	成年男子	県単出場		県単出場	-	-	-	-	
		少年男子	13	1	2	4	3	①	不参加	
33	クレ-射撃	トラップ	県単出場		県単出場	-	-	-	-	
		スキート	県単出場		県単出場	-	-	-	-	
34	なぎなた	成年女子	県単出場		県単出場	-	-	-	-	
		少年女子	試合	32	3	②	5	4	③	①
35	ボウリング	成年男子	25	3	4	5	③	①	②	
		成年女子	25	3	5	4	①	②	③	
		少年男子	25	3	5	4	③	①	②	
		少年女子	25	3	5	②	4	①	③	
36	ゴルフ	成年男子	県単出場		県単出場	-	-	-	-	
		女子	県単出場		県単出場	-	-	-	-	
		少年男子	28	3	③	4	②	①	5	
37	トライアスロン	成年男子	県単出場		県単出場	-	-	-	-	
		成年女子	県単出場		県単出場	-	-	-	-	
ブロック大会			突破競技数			21	12	20	21	19
			突破種目数			39	34	56	43	46

島根県競技力向上対策本部 本部会議 委員

(本部長：1名、副本部長：2名、委員：16名 計：19名)

【本部長：1名】敬称略

役 職	氏 名
島根県副知事	石原 恵利子

【副本部長：2名】敬称略、順不同

役 職	氏 名
公益財団法人島根県スポーツ協会理事長	田部 長右衛門
島根県環境生活部長	美濃 亮

【委員：16名】敬称略、順不同

役 職	氏 名
島根県市長会長	久保田 章市
島根県町村会長	池田 高世偉
島根県教育委員会教育長	野津 建二
島根県市町村教育委員会連合会会長	杉谷 学
島根県商工会議所連合会幹事長	松浦 俊彦
島根県商工会連合会会長	高橋 日出男
島根県中小企業団体中央会会長	杉谷 雅祥
公益財団法人島根県スポーツ協会専務理事	竹内 俊勝
公益財団法人島根県スポーツ協会スポーツ医・科学委員長	伊達 伸也
株式会社山陰合同銀行執行役員人事部長	原 直幸
株式会社中筋組代表取締役社長	中筋 豊通
島根県小学校長会長	安達 利幸
島根県中学校体育連盟会長	安達 正治
島根県高等学校体育連盟会長	山崎 誠
島根県立大学名誉教授	岸本 強
オリンピック（東洋大学教授）	土江 寛裕

【監事：2名】敬称略、順不同

役 職	氏 名
島根県会計管理者	出雲 昌浩
公益財団法人島根県スポーツ協会監事	佐藤 行生

令和5年度 島根県競技力向上対策本部執行予算 補正予算（本部長専決処分）

島根県競技力向上対策本部の令和5年度補正予算は、次のとおりとする。

（単位：千円）

科 目	当初予算額	補正予算額	現計額	説 明
事 業 費	245,184	0	245,184	
1. 組織体制の整備・充実	12,441	▲ 7,641	4,800	実績見込による減
2. 選手の発掘・育成・強化	168,540	15,068	183,608	強化に必要な備品等の購入 支援に伴う増
3. 指導者の養成・資質向上	16,128	▲ 5,469	10,659	実績見込による減
4. 選手指導者を支える環境整備	18,876	▲ 1,958	16,918	実績見込による減
5. その他	29,199	0	29,199	R7中国総体強化費等
事 務 局 費	4,910	0	4,910	事務局運営費
繰越金返還金	26,045	0	26,045	
合 計	276,139	0	276,139	

令和5年度収支決算（案）

1 収入の部

(単位：円)

科目	予算額 (A)	収入済額 (B)	差額 (B-A)	説明
負担金	250,093,300	250,093,300	0	県負担金
諸収入	0	899	899	預金利息
繰越金	26,045,128	26,045,128	0	前年度繰越金 島根県へ返還
合計	276,138,428	276,139,327	899	

2 支出の部

(単位：円)

科目	予算額 (A)	支出済額 (B)	差額 (B-A)	説明
事業費	245,183,300	244,099,753	△ 1,083,547	
1. 組織体制の整備・充実	4,800,000	4,775,254	△ 24,746	
2. 選手の発掘・育成・強化	183,608,000	182,973,017	△ 634,983	
3. 指導者の養成・資質向上	10,658,700	10,397,962	△ 260,738	
4. 選手指導者を支える環境整備	16,918,000	16,754,920	△ 163,080	
5. その他	29,198,600	29,198,600	0	R7中国総体強化支援事業等
事務局費	4,910,000	4,906,408	△ 3,592	事務局運営費
繰越金返還金	26,045,128	26,045,128	0	島根県へ 繰越金返還
合計	276,138,428	275,051,289	△ 1,087,139	

収入済額 276,139,327円 - 支出済額 275,051,289円 = 収支差額（次年度繰越額）1,088,038円（※）
 ※次年度へ繰越した上で、島根県一般会計へ返還

令和5年度 国民スポーツ大会競技力向上対策事業 実施状況

4つの柱	事業名	実施状況	
1 整備組・織 充実制の	競技力向上推進体制支援	先催県及び中央競技団体から、競技力向上の取組事例・手法を学ぶ調査活動等に要する経費を支援（40競技団体）	
2 選手 の 発 掘 ・ 育 成 ・ 強 化	ジュニア アスリート 発掘 事業	スポーツ教室開催支援	競技団体が普及を目的とした教室を開催するために必要な経費を支援（27競技（延べ1562人））
		トップアスリート派遣	トップアスリート等を小学校や競技体験会などへ招請し、講演会や体験会を実施（12校（団体））
		アスリートタレント育成	運動能力に優れた小学生を「島根アスリートキッズ」に認定し、未普及競技の選手として育成する機会を支援（1期生58名、2期生57名、3期生60名）
		競技体験会	県内各種イベントにおいて、未普及競技の体験会及び競技の適性診断を実施（12競技（129名））
	ジュニアアスリート強化	競技団体が県内中学生を選抜して行う県外遠征や合同練習会に要する経費を支援（34競技団体）	
	高校生重点校アスリート支援	スポーツ推進重点校等における部活動の県外遠征や県外強豪校を招いた合同練習会に要する経費を支援（38部活動（団体）、3競技団体）	
	国体強化指定アスリート 合同研修会	少年の部の国体強化指定選手とその指導者に対し、島根県代表選手としての自覚や意識を高めるための合同研修会を実施（54人）	
	国体選手強化	競技団体が国体候補選手を選抜して行う県外遠征、招請試合及び強化練習会に要する経費を支援（40競技団体）	
ふるさと選手支援	県外で活動するふるさと登録選手に対し、合同練習会への参加や国体県予選の出場に要する経費を支援（対象選手58人）		
アドバイザーコーチ招請	県内に優れた指導者がいない競技や、振り付け等の特殊な指導を要する競技について、県外から優秀な指導者をアドバイザーとして招く経費を支援（11競技団体）		
世界を目指すアスリート支援	全国トップレベルで活躍する選手の海外遠征等に要する経費を支援（対象選手14人）		
ジュニア指導体制整備	本県の競技力向上に必要なと認められる指導者を競技力向上対策本部へ配置		
3 指導者 の 養 成 ・ 資 質 の 向 上	競技団体別指導者養成	県内指導者の資質向上のために、県外から優秀な指導者を招聘する経費を支援（18競技団体）	
	トップコーチ育成支援	日本トップレベルの戦術やトレーニング方法を学ぶ県外研修に要する経費の支援や、年間カリキュラムを組んだオンライン形式の研修を実施（県外研修派遣10人、オンライン研修受講237人）	
	コーチ資格取得支援	監督・指導者として必要となるコーチ資格の資格取得に要する経費を支援（15競技団体）	
	地域指導者部活動派遣	部活動の競技力向上のために地域指導者を部活動に派遣（48部活動（55人））	
	地域指導者養成	地域指導者養成を推進するために地域指導者を部活動に派遣（10部活動（12人）、4クラブ（11人））	
4 支 援 手 ・ 環 境 整 備 を	競技用具整備	競技の普及・強化に必要な特殊で高額な競技用具を整備（9競技団体）	
	オー ル 島 根 マ ル チ サ ポ ー ト	サポーターチーム派遣 （スポーツ医科学サポート）	スポーツトレーナーやスポーツ栄養士等を大会や練習に派遣（88部活動、9競技団体（延べ448回））
		遠征帯同トレーナー派遣	運動量やコンタクトプレーの多い競技の選手がより良いコンディションで大会に臨めるように、国体以外の全国大会へトレーナーを派遣（3部活動）
		国体チームサポーター派遣	選手がより良いコンディションで大会に臨めるように、国体やブロック大会へ支援コーチやトレーナーを派遣（23競技団体）
		医科学トレーニング実践	医科学的指標に基づいて選手の身体能力等を測定し、日ごろのトレーニング評価を実施（5部活動）
部活動指導教員の 代替非常勤講師等配置事業	代替で受け持ち授業等を行う非常勤の講師等をスポーツ推進重点校等に配置（20部活動）		
5 そ の 他	R7中国総体強化支援事業費等	特別強化指定校及び一般強化指定校における県外遠征の実施や強豪校等を招請する経費を支援（17部活動）※保健体育課事業	

監 査 報 告

島根県競技力向上対策本部規約第7条第3項及び第16条の規定に基づき、令和5年度収支決算に関する会計書類について監査したところ、その内容が適正であったことを認めます。

令和6年8月6日

監 事

出雲 昌浩 

令和6年8月6日

監 事

佐藤 行生 

島根県競技力向上対策本部 本部長 石原 恵利子 様

令和6年度収支予算（本部長専決処分）

(令和6年4月1日～令和7年3月31日)

島根県競技力向上対策本部の令和6年度収支予算は、次のとおりとする。

1 収入の部

(単位：千円)

科目	当初予算額	説明
負担金	468,007	県負担金
繰越金	1,088	
合計	469,095	

2 支出の部

(単位：千円)

科目	当初予算額	説明
事業費	319,737	
1. 組織体制の整備・充実	12,588	
2. 選手の発掘・育成・強化	237,815	
3. 指導者の養成・資質向上	19,731	
4. 選手指導者を支える環境整備	23,933	
5. その他	25,670	R7中国総体強化支援事業等
事務局費	4,893	事務局運営費
繰越金返還金	1,088	
国民スポーツ大会選手派遣事業	101,517	
中国ブロック大会開催事業費	41,860	
合計	469,095	

**令和6年度
国民スポーツ大会競技力向上対策事業**

4つの柱	事業名	概要	
1 組織 ・体制 ・充実 の実	競技力向上推進体制支援	・先催県や中央競技団体などの強化関係者の招聘、県外視察等を実施 ・ふるさと選手の確保や有望選手のスカウト等のための県外訪問を実施 ・強化担当者や競技力向上計画の検証・評価の検討会等を開催 ・島根県競技力向上対策本部や島根県スポーツ協会が開催する各種会議やヒアリングなどに参加	
	ジュニア 選手 育成 ・強化	スポーツ教室開催支援	・国スポの候補選手となるジュニアを増やすため、普及のための教室を開催
		タレント発掘育成	・運動能力の高い小学生を選抜して、未普及競技の選手として育成
		競技体験会	・競技に取り組むジュニア（小中学生）確保のため、各競技の体験会を開催
		ジュニアアスリート強化	・県内の優秀な小中学生を選抜して県外遠征等を実施
		国スポ強化指定校支援	・国スポ強化指定校が県外遠征や強豪校との招請合宿を実施 （R6は消耗品等の練習付帯経費や映像分析ツールも支援対象として実施）
		国スポ選手強化	・国スポ候補選手（少年、成年）を選抜して県外遠征等を実施 （R6は消耗品等の練習付帯経費に加え、映像分析ツールも支援対象として検討）
		ふるさと選手支援	・ふるさと選手の強化合宿参加や国スポ県予選出場を支援（ジュニア指導等を条件に帰県費用を支援）
		アドバイザーコーチ招請	・演技の振り付けや武道の形などの特殊な指導や、県内指導者では指導が難しい専門的な指導が必要な競技について、県外の優秀な指導者を招請
		世界を目指すアスリート支援	・全国トップレベルで活躍している選手の競技力を飛躍させるため、海外遠征等を支援（選手の活躍により次世代のジュニア選手が育つ好循環に繋げる）
		ジュニア指導体制整備	・競技力向上の中心を担う指導者が県内にいない競技について、指導者を県スポーツ協会のスポーツ指導員として配置（体操、ホッケー、水泳、フェンシング）
		中学校での競技継続対策	・中学校で部活動がない競技について、競技が継続できるようクラブ創設・運営にかかる経費を支援
		高校生の競技活動支援	・一定の実績を有する選手の県外流出を防ぎ、また、県外から優秀な選手を確保できるよう、寮費等及び競技活動費を支援
	かみりアスリート登録	・大学・社会人で活動するアスリート情報を集約し、県内の競技情報や就職支援情報を発信することで、ふるさと選手の確保や大学卒業時の就職支援を強化	
	トップアスリート民間雇用促進	・一定以上の競技実績があり、国スポを目指して活動する選手・指導者を雇用した企業等に対して雇用支援金を支給	
2 選手 の 発 掘 ・ 育 成 ・ 強 化	競技団体別指導者養成	・県外指導者やスポーツ医科学の専門家等を講師とした県内研修を実施	
	トップコーチ育成支援	・強化の中心となる指導者の指導力向上のため、トップレベルの戦術やトレーニング手法などを学ぶ年間カリキュラムの研修を実施 ・競技ごとの専門的な指導方法を学ぶため、指導者を県外研修へ派遣	
	コーチ資格取得支援	・国スポの監督資格として必要となる日本スポーツ協会公認指導者資格の取得を支援 ・日本スポーツ協会公認アスレチックトレーナーの資格取得を支援	
	部活動指導員(競技力向上)配置 (公立学校分)	・競技力向上のための部活動指導員を、特に強化が必要となる公立高校に配置 ※県直執行	
	部活動指導員(競技力向上)配置 (市町村立中学校分)	・競技力向上のための部活動指導員を、特に強化が必要となる市町村立中学校等に配置	
	地域指導者部活動派遣 (公立学校分)	・国スポ強化指定校等に指導力の高い地域指導者を公立学校に配置 ※県直執行	
	地域指導者部活動派遣 (私立学校等分)	・国スポ強化指定校等に指導力の高い地域指導者を配置	
	地域指導者養成 (公立学校分)	・県内の優秀な指導者の下に経験の浅い指導者を公立学校に配置し、養成 ※県直執行	
	地域指導者養成 (私立学校等分)	・県内の優秀な指導者の下に経験の浅い指導者を配置し、養成	
3 指導 者 の 養 成 ・ 質 の 向 上	競技用具備品整備	・特殊かつ高額で、個人や競技団体では購入が不可能な、強化練習に必要な競技用具を整備 ※県直執行	
	ス ポ ー ツ 医 科 学 サ ポ ー ト	サポーターチーム派遣 (スポーツ医科学サポート)	・アスレチックトレーナー、栄養士、薬剤師等を強化指定校や競技団体に派遣 ・女性アスリートを対象に産婦人科医、内科医、栄養士を派遣
		遠征帯同トレーナー派遣	・全国大会で上位入賞する少年競技が安定して成績を収められるよう、運動量やコンタクトプレーの多い競技について、インターハイや全国選抜大会等にトレーナーを派遣
		国体チームサポーター派遣	・国スポやブロック大会へ支援コーチやトレーナーを派遣
		医科学トレーニング実践	・島根大学と連携した科学的手法による体力測定を実施し、日々のトレーニングの効果を評価
		部活動指導教員の 代替非常勤講師等配置事業（公立学校分）	・国スポ推進教員、スポーツ推進教員が国スポに向けた競技力向上の取組等を行う場合、代替で受け持ち授業等を行う非常勤の講師等を配置 ※県直執行
	部活動指導教員の 代替非常勤講師等配置事業（私立学校分）	・国スポ強化指定の私立高等学校部活動の指導教員が、国スポに向けた競技力向上の取組等を行う場合、代替で受け持ち授業等を行う非常勤の講師等を配置	
5 そ の 他	R7中国総体強化支援事業等	・特別強化指定校及び一般強化指定校における県外遠征の実施や強豪校等を招請する経費を支援 ※保健体育課事業	

国民スポーツ大会選手派遣事業

事業名	概要
国民スポーツ大会選手派遣事業	・本大会、中国ブロック大会への選手・指導者等の派遣及び県予選の実施

国民スポーツ大会中国ブロック大会開催事業費

事業名	概要
国民スポーツ大会中国ブロック大会開催事業費	・R6年度に島根県で開催される国体中国ブロック大会の運営費及び備品整備費を支援

主要事業の取組状況 (中学生クラブ創立・運営支援事業)

1 現状・課題

競技人口が少ない未普及競技の中には、中学校に部活動が設置されていない競技や、活動が十分でない競技があり、中学生になって競技転向をせざるを得ない状況がある。

2 事業内容

① 中学生クラブ創立支援事業

[支援内容]

- ・ クラブ（競技団体が指定するものに限る）の創立時に必要な、競技用具の購入経費等を支援

[支援対象]

- ・ 県内中学校に部活動がなく、かつ、クラブ（社会体育）もない競技
- ・ その他、競技力向上対策本部が特に必要と認める競技

[支援条件]

- ・ 収益事業としてのスポーツクラブでないこと

② 中学生クラブ運営支援事業

[支援内容]

- ・ クラブ（競技団体が指定するものに限る）の運営に必要な、指導者謝金や会場使用料等を支援

[支援対象]

- ・ 県内中学校に部活動がない競技
- ・ その他、競技力向上対策本部が特に必要と認める競技

[支援条件]

- ・ 既存クラブの場合は、活動の充実（活動日の増等）を図ることが支援の条件
- ・ 収益事業としてのスポーツクラブでないこと

3 取組状況

別紙のとおり

中学生クラブ創立・運営支援事業 取組状況

① 創立支援対象競技（中学校部活動も、クラブ等もない競技）

No	競技名（種目）	創立見込	活動場所	備考
1	アーチェリー	○	出雲工業高校	
2	ボウリング	○	しんじ湖ボウル 出雲会館センターボウル	
3	トライアスロン	○	隠岐の島町	
4	ローイング	○	大橋川（松江市）	
5	新体操（男子）	○	だんだんトマトアリーナ	
6	ライフル射撃	○	立正大学淞南高校	
7	ハンドボール（東部）	○	松江南高校	[対策本部が特に必要と認める競技] クラブはあるが西部（江津）にしかないため、東部での創立
8	スポーツクライミング	○	津和野中学校	[対策本部が特に必要と認める競技] クラブはあるが東部にしかないため、津和野で創立
9	ヨット（セーリング）	△（今後検討）		R7年度の創立を目指す
10	ウェイトリフティング	△（今後検討）		R7年度の創立を目指す
11	ゴルフ	△（今後検討）		R7年度の創立を目指す
12	ビーチバレー	－		バレー（6人制）を強化し、その中から選手を選抜する方針のため、ビーチバレーに特化したクラブは創立しない
13	銃剣道	－		剣道を強化し、その中から選手を選抜する方針のため、銃剣道に特化したクラブは創立しない
14	空手道	－		民間の道場で活動
15	馬術	－		民間の馬術場で活動

② 運営支援対象競技（クラブ等はあるものの中学校部活動がない競技）

No	競技名（種目）	補助対象 (活動を充実させるクラブ)	活動場所	備考
1	アイスホッケー	○	夏季：旧東小学校等 冬季：湖遊館	オフシーズンの活動充実
2	水球	○	江津高校 江津SS等	活動日拡充
3	レスリング	○	松江工業高校 島根県立武道館 加茂B&G海洋センター	活動日拡充
4	フェンシング	○	安来高校 松江工業高校 広瀬中学校	活動日拡充
5	ソフトボール（男子）	○	加茂中央運動公園 加茂B&G海洋センター等	活動日拡充
6	ラグビーフットボール	○	松江市深田公園 松江市北公園等	活動日拡充
7	カヌー	△（今後検討）		[対策本部が特に必要と認める競技] 部活はあるが邑智中学校にしかないため、R7年度の出雲クラブ等の活動拡充を目指す
8	なぎなた	△（今後検討）		R7年度の拡充を目指す
9	スキー	△（今後検討）		R7年度の拡充を目指す
10	スケート	－		既存のクラブ活動の維持
11	トランポリン	－		既存のクラブ活動の維持
12	自転車競技	－		既存のクラブ活動の維持
13	飛込	－		民間のスイミングスクールで活動
14	AS	－		民間のスイミングスクールで活動
15	ボクシング	－		民間のジムで活動

主要事業の取組状況 (高校生の競技活動支援事業)

1 目的

優秀な競技力を有する高校生（高等専門学校生含む）を指定し、競技活動費及び寮費等を支援することで、生徒の県外流出防止及び県外からの確保、また、将来のふるさと選手確保に繋げる。

2 事業内容

(1) 支援内容

寮費等（上限4万円/月）及び競技活動費（定額1万円/月）

（※）実家等から通学する生徒は競技活動費のみ支援

(2) 対象者

島根かみあり国スポ強化指定校（※）に在籍する生徒

（※）強化指定校がない競技はいずれの高校でも可

(3) 条件

- ・ 全国大会等で入賞するなど、一定以上の実績があること
- ・ 高校在学中及び高校卒業後4年間は、島根県代表として国スポに参加する意思があること

(4) 選考

競技力向上対策本部において、応募者の中から支援条件を満たし、かつ、国スポ選手として確保する優先度の高い生徒を選考し、予算の範囲内で支援対象者を決定する。

3 申請状況（R6年度の高校1年生）

競技名	人数	性別	
		男子	女子
バレーボール	1	1	
ホッケー	4	4	
体操	2	2	
剣道	3	1	2
サッカー	2	2	
カヌー	2	1	1
レスリング	2	1	1
柔道	8	7	1
バドミントン	1	1	
ソフトテニス	1	1	
卓球	2	1	1
陸上	4	2	2
ボクシング	1	1	
ゴルフ	2	2	
ソフトボール	1		1
合計	36	27	9

4 その他

優秀な競技力を有し県外の高校に進学する生徒についても、卒業後の国スポ出場という要件を付したうえで支援を実施（今回は該当者なし）

島根かみあり国スポ強化指定校について

1 趣旨

島根かみあり国スポに向けて高校生競技力向上を図るため、重点的に支援する高等学校運動部等を指定し、強化活動を支援する。

2 対象

国民スポーツ大会正式競技であり、島根県高等学校体育連盟(以下、「県高体連」という。)に加盟する競技専門部のうち、高等学校運動部活動において選手強化活動を行う運動部活動、もしくは県高体連競技専門部

3 指定の種類

指定の種類は「単独型」、「複数型」、「個人指定型」、「拠点型」とする(詳細は別紙参照)。

4 指定基準

県高体連から推薦のあった競技の中から、以下の①～③の基準に基づいて、島根県教育委員会(以下、「県教委」とする。)と協議のうえ、島根県競技力向上対策本部(以下、「対策本部」とする。)が決定する。

- ①特別体育専任教員及びスポーツ推進教員の配置校
- ②今後3年以内に、国民スポーツ大会、全国高校総体、及び全国選抜大会(選手権大会)でベスト 16 以上の成績が見込まれる学校(国民スポーツ大会では選抜チームの主力となる学校)、もしくは個人指定の競技
- ③その他、対策本部が認める学校、もしくは個人指定の競技

5 指定期間

指定期間は、島根かみあり国スポが開催される令和 12 年度末までとし、原則として期間中の変更はしない。ただし、特段の事情により変更の必要が生じた場合は指定基準に基づいて、県教委と協議のうえ、対策本部が決定する。

6 支援内容

- ①全国大会等での実績に応じた、強化活動に係る経費の助成
- ②指導者の配置
- ③スポーツ特別選抜入試の適用(スポーツ推進教員が配置されている学校の個人指定競技を含む)
- ④その他、競技力向上を図るうえで、対策本部が必要と認めるもの

島根かみあり国スポ強化指定校（競技別）

No.	競技名		男子			女子		
			指定校	備考	参考	指定校	備考	参考
1	スケート							
2	アイスホッケー							
3	スキ							
4	陸上競技		-	個人指定		-	個人指定	
5	水泳	競泳						
		水球	江津高校	単独				
		飛込						
		アーティスティックスイミング						
6	サッカー		立正大字浜南高校	複数		松江商業高校	拠点	
			大社高校	複数				
7	テニス		開星高校	単独				
8	ローイング（ボート）		江津工業高校	拠点		松江東高校	拠点	
			松江東高校	拠点	R7年度指定			
9	ホッケー		横田高校	単独		横田高校	単独	
10	ボクシング		-	個人指定		-	個人指定	
11	パレーボー	6人制	安来高校	複数		安来高校	単独	
		ビーチバレーボール	松江工業高校	複数				
12	体操	競技	大社高校	複数		大社高校	複数	
		新体操	浜田高校	複数		浜田高校	複数	
13	バスケットボール		松江東高校	単独		松江商業高校	単独	
14	レスリング		隠岐島前高校	単独		隠岐島前高校	単独	R7IH特別（個人指定）
			松江工業高校	拠点				
15	ヨット		隠岐水産高校	拠点		隠岐水産高校	拠点	
16	ウエイトリフティング		出雲農林高校	拠点		出雲農林高校	拠点	
17	ハンドボール		江津高校	複数※		江津高校	複数※	
18	自転車		出雲工業高校	拠点		出雲工業高校	拠点	
19	ソフトテニス		松江工業高校	複数		松江西高校	複数	
			出雲北陵高校	複数		出雲北陵高校	複数	R7年度指定
						松江南高校	複数	R7年度指定
20	卓球		出雲北陵高校	単独		明誠高校	単独	
21	軟式野球							
22	相撲		隠岐水産高校	拠点				
23	馬術							
24	フェンシング		安来高校	複数※	R7IH特別（松江工業）	安来高校	拠点	R7IH特別（個人指定）
25	柔道		開星高校	複数		出雲西高校	複数	
			平田高校	複数		平田高校	複数	
26	ソフトボール		三刀屋高校	単独		三刀屋高校	単独	
27	バドミントン		松徳学院高校	単独		松江商業高校	単独	
28	弓道		出雲高校	複数※		出雲高校	複数※	
29	ライフル射撃		立正大字浜南高校	単独		立正大字浜南高校	単独	
30	剣道		大社高校	単独		大社高校	単独	
31	ラグビー		石見智翠館高校	単独		石見智翠館高校	単独	
32	山岳				R7IH一般（松江北）			R7IH一般（松江北）
33	カヌー		島根中央高校	拠点		島根中央高校	拠点	
			出雲農林高校	拠点		出雲農林高校	拠点	
34	アーチェリー		松江東高校	複数		松江東高校	複数	
			出雲工業高校	複数		出雲工業高校	複数	
35	空手道				R7IH一般（出雲工業）		R7IH一般（松江南）	
36	銃剣道							
37	クレール射撃							
38	なぎなた					出雲北陵高校	単独	R7IH特別（個人指定）
39	ボウリング							
40	ゴルフ							
41	トライアスロン							

※今後2校以上を指定予定

指定競技：28競技
 指定校数：22校
 個人指定：2競技

指定競技：26競技
 指定校数：22校
 個人指定：2競技

島根かみあり国スポ強化指定校（学校別）

No.	学校名	男子	女子
		指定競技	指定競技
1	安来高校	バレーボール フェンシング	バレーボール フェンシング
2	情報科学高校		
3	松江北高校	山岳（R7インターハイ一般強化）	山岳（R7インターハイ一般強化）
4	松江南高校		ソフトテニス 空手（R7インターハイ一般強化）
5	松江東高校	ローイング（ボート）	ローイング（ボート）
		バスケットボール アーチェリー	アーチェリー
6	松江工業高校	バレーボール レスリング ソフトテニス フェンシング（R7インターハイ特別強化）	
			サッカー バスケットボール バドミントン
7	松江商業高校		
8	松江農林高校		
9	大東高校	ビーチバレーボール	
10	横田高校	ホッケー	ホッケー
11	三刀屋高校	ソフトボール	ソフトボール
12	飯南高校		
13	平田高校	柔道	柔道
14	出雲高校	弓道	弓道
15	出雲工業高校	自転車 アーチェリー	自転車 アーチェリー
		空手（R7インターハイ一般強化）	
16	出雲商業高校		
17	出雲農林高校	ウエイトリフティング カヌー	ウエイトリフティング カヌー
		サッカー 体操 剣道	体操 剣道
18	大社高校		
19	大田高校		
20	邇摩高校		
21	島根中央高校	カヌー	カヌー
22	矢上高校		
23	江津高校	水球 ハンドボール	ハンドボール
		ローイング（ボート）	
24	江津工業高校		
25	浜田高校	体操	体操
26	浜田商業高校		
27	浜田水産高校		
28	益田高校		
29	益田翔陽高校		
30	吉賀高校		
31	津和野高校		
32	隠岐高校		
33	隠岐島前高校	レスリング	レスリング
34	隠岐水産高校	ヨット 相撲	ヨット
35	皆美が丘女子高校		
36	開星高校	テニス 柔道	新体操
		サッカー ライフル射撃	ライフル射撃
37	立正大浜南高校		
38	松徳学院高校	バドミントン	
39	松江西高校		ソフトテニス
40	出雲北陵高校	ソフトテニス 卓球	ソフトテニス なぎなた
			柔道
41	出雲西高校		
42	石見智翠館高校	ラグビー	ラグビー
43	明誠高校		卓球
44	益田東高校		
		28競技、22校 （2競技は個人指定）	26競技、23校 （2競技は個人指定）

※個人指定競技は男女陸上競技、男女ボクシングとする。

女性アスリートの課題対応

1. 趣旨

- ・ 鹿児島国体では女子種別の競技得点が全体の2割に留まった。2030年に中心選手となる世代の女性アスリートに対し、競技力向上事業の効果的な実施と有効活用を通じて、国スポへの出場者を増やし、女子種別での入賞の増加を図る。
- ・ 女性アスリートの裾野拡大・強化に向け、支障となっている女性特有の課題を医療関係者へのヒアリングを通じて把握し、対応を検討する。

2. 現状と課題の把握

- ・ 医・科学サポート事業での介入実績のあるサポートスタッフへ課題点や今後必要となる対策について聞き取りを行った
- ・ 競技力向上推進室カウンターパートが把握している各競技の実態や女性アスリートの状況を踏まえ、課題を整理

3. 課題

- (1) 女性アスリートの競技継続
 - ・ 中学、高校、大学等への進学を機に競技から離れる場合がある
(特に、高校時代に活躍した選手が大学でも競技継続する働きかけが重要)
 - ・ 高い競技力を有する選手であっても大学等進学先に競技継続する環境がなく競技から離れる場合がある
 - ・ 出産、育児を経て競技復帰を希望する選手へのサポート体制が未整備
- (2) ふるさと選手の確保
 - ・ 大学で競技を継続している選手への支援や競技団体・県がコンタクトを取る体制が不十分
- (3) スポーツ医科学サポート事業の拡充
 - ・ 女性アスリートへの専門的観点からのサポート体制が不十分
 - ・ 女性アスリートを支援する専門スタッフが連携を取れる体制が不十分
 - ・ 女性特有の健康課題についての教育や啓発が不十分(選手、保護者、指導者)

4. 今後の対応

- (1) 競技継続するための広報・支援を強化
 - ・ 島根かみあり国スポ・全スポ特設サイトに「女性アスリート」のページを開設し、女性アスリートの活躍、女性アスリートに関する講習会の情報、選手を支える専門スタッフや活動事例等の情報をアップし、女性アスリートが競技に取り組む意欲を高める
 - ・ 競技団体や強化指定校教員が連携し、大学等に進学しても競技継続するよう高校時から働きかけを行い、また、高いレベルの競技環境がある大学等へ繋ぐ取組を強化する
- (2) ふるさと選手の声掛け強化
 - ・ 大学生等へのふるさと選手確保の全体の取組の中で働きかけを強化(かみありアスリートLINE登録、大学を訪問した協力要請など)
- (3) 女性アスリートの医科学サポート強化
 - ・ 女性アスリートの健康課題についての相談窓口の設置を検討
 - ・ 島根スポーツメディカルセンター(SMC)と協力し、女性アスリート、指導者、保護者を対象とした研修会を開催
 - ・ 「安心して競技に取り組める環境」の実現に向け、SMCを中心としたサポート体制を構築(県内唯一の女性アスリート外来が設置)

スポーツ医科学サポート事業の体制整備

1. 趣旨

島根かみあり国スポに向けた競技力向上を図るためには、アスリートを支える医科学サポートが重要であることから、現在の課題等を整理し、より効果的なサポートができるよう体制整備を進める。

2. 課題

- ・ 個々の事業が単体で実施されており、各事業を組み合わせた医科学サポートが十分にできていない
- ・ 選手をサポートする医科学支援関係団体間で情報共有するシステムが整っていない
- ・ 女性アスリートの相談、メンタルトレーナー派遣など提供できていないメニューやボリュームが十分でないメニューがある
- ・ 事業実施後の評価をするシステムが整っていない

3. 対応（別紙「スポーツ医科学サポート事業体制」）

- ・ ワンストップ窓口（アドミニストレーター）を設置し、多様な専門スタッフが連携し、アスリートへの適切な医科学リソースのマッチングができる体制整備を目指す
- ・ 体制整備に向け、関係機関・団体による「（仮称）島根県スポーツ医科学コンソーシアム」の立上げを目指す

4. スケジュール（案）

- R6. 8月：スポーツ医科学専門部会、選手強化対策委員会で取組の方向性について意見聴取
- R6. 12月：事務局にて体制整備（コンソーシアム）や取組内容の構想（案）を作成
- R7. 1月：スポーツ医科学専門部会で体制整備（コンソーシアム）や取組内容の構想（案）を協議
- R7. 3月：選手強化対策委員会で体制整備（コンソーシアム）や取組内容の構想（案）を協議
- R7. 8月：島根県競技力向上対策本部で構想（案）を審議
- R7. 9月：コンソーシアム立上準備委員会設置、コンソーシアムの運営方法を検討
- R7. 9月：R8 予算要求
- R8. 3月：コンソーシアム立上げ
- R8. 4月：コンソーシアムによるスポーツ医科学サポート体制の運用開始

<スポーツ医科学サポート事業体制>

凡例

医療機関自主事業

県実施事業

メディカルサポート

島根スポーツメディカルセンター・女性アスリート外来
(大学病院)

- ①診察・治療
- ②リハビリテーション
- ③女性アスリート相談【未】

連携

協力診療所・病院・治療【未】

- ①診察・治療【未】
- ②リハビリテーション【未】
- ③女性アスリート相談【未】

メニューを活用して支援

チーム
アスリート
指導者

ワンストップ窓口 (アドミニストレーター) 【未】

メニューを活用して支援

フィジカルサポート

県・スポーツ協会

■体力測定・トレーニング指導

- ④島根大と連携した医科学トレーニング実践事業
- ⑤環太平洋大と連携した体力測定・トレーニング指導事業
- ⑥サポーターチーム派遣事業 (AT・理学療法士)

■栄養指導

- ⑥サポーターチーム派遣事業 (栄養士)

■アンチドーピング指導

- ⑥サポーターチーム派遣事業 (薬剤師)

■女性アスリートサポート

- ⑥サポーターチーム派遣事業 (婦人科医、内科医、栄養士)

■大会時のサポート

- ⑦国体チームサポーター派遣事業
- ⑧遠征帯同トレーナー派遣事業

連携

<大学>

- ・島根大学
- ・環太平洋大学

連携

<協力団体>

- ・AT協議会
- ・理学療法士会
- ・栄養士会
- ・薬剤師会

< 医科学サポートフロー >

凡例

医療機関自主事業

県実施事業

チーム
指導者
アスリート

ワンストップ窓口【未】
(アドミニストレーター)

事業を使ったサポート例

